

小学生の学内外のスポーツ・運動に関する実施状況と課題

—非実施者のスポーツ・運動支援について考える—

Implementation Status and Issues Related to In-School and Out-of-School Sports and Exercise for Primary School Pupils: Considerations for Sports and Exercise Support for Non-Participants

金子 勝 司*・大 月 和 彦**

Shoji KANEKO, Kazuhiko OTSUKI

要旨：小学生の学内外におけるスポーツ・運動の実施状況について調査を行い、その傾向を明らかにすることで、今後の在り方を考察する。また、体育の授業以外にはほとんど運動をしていない非実施者に対して、その要因を探り、スポーツ・運動の実施に向けた支援策を明らかにすることを目的とした。調査方法は、大阪府 K 市の公立小学校の全 24 校の中から、中規模以上の小学校 4 校を選出し質問紙による調査を実施。結果、週 1 回以上活動している者は、男女とも 6 割を超えており、その多くが地域のスポーツ教室や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等に所属している割合が高く、地域スポーツが小学生のスポーツ・運動実施に大きく寄与していることが明らかになった。また、スポーツ・運動をする切っ掛けとなったのは、「友人の紹介」という回答が男女とも高い数値を示し、友人関係の充実がスポーツ・運動の実施に大きく影響していた。その他、帰宅後、「ほとんどしていない」と回答した者でも、学校の自由時間においては、51.3%の者が「よくする」「時々している」と回答していることから、学校の休み時間の活用と仲間づくりがスポーツ・運動を実施する機会につながる事が明らかになった。

キーワード：小学生、運動・スポーツ活動、実施率、非実施者

I. 諸言

笹川スポーツ財団の調査によると、未就学児から小学生年代（4～11 歳）、中学生から大学生年代（12～21 歳）ともに高頻度（週 7 回以上運動する者）でスポーツ・運動をしている者は減少傾向を示し、過去 1 年間に運動・スポーツを全く行わなかった非実施者は増加傾向にある¹⁾。また、スポーツ庁の 2019 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」においても、子どもの

* かねこ しょうじ 客員研究員・大阪体育大学教育学部

** おおつき かずひこ 文教大学教育学部

体力の大幅な低下が示され、その要因としてテレビやスマートフォン、携帯ゲーム機等を見ている時間との関連性が指摘されている²⁾。子どもたちが公園等で自由にボール遊び等を行えるようにしたり、家族で一緒に身体を動かす機会を増やす等、子どものスポーツ・運動・運動あそびを促進する取り組みが急務である。また、小学生（6～11歳）の運動習慣・体力と幼児期の外遊びの関係についてみると、小学校入学前の外遊びの実施頻度が高い程、日常的にスポーツ・運動を行い、新体力テストの合計点も高い傾向にある³⁾。しかし、遊ぶ場所の減少や一緒に遊ぶ仲間の減少等の理由により、子どもの「体遊び」の機会が減っていること、遊びの種類も減っており、各学年に適した運動ができない子どもが増えている⁵⁾。これまでも、運動する子どもとしない子どもの体力水準が二極化しているのではないかと推測されていた。全国体力調査において、1週間の総運動時間を平日・土日別に算出したことにより、1週間の総運動時間において二極化が起きていることが示された⁶⁾。小学生については、1週間の総運動時間60分未満の児童の割合は、男子10.5%、女子24.2%であり、体力の二極化の傾向が認められた。運動時間の少ない子ども達に対する働きかけが、体力向上にとっての課題であり、体育の時間以外に週60分未満（平均すれば1日10分以下）しか運動をしていない児童の運動時間を増やすことが、全体の子どもの体力を向上させる重要であると考えられる⁷⁾。1週間の総運動時間が60分未満の群の中で、体育の授業以外には全くスポーツや運動をしていない（0分）子どもが、小学校で男女とも25%弱という高い比率で存在している。0分の群に1分以上15分未満しか運動していない群を加えれば、小学校では男女とも約半数となり、これらの児童は体育の授業以外では、ほとんど運動をしていないことが示された。体育の授業以外にはほとんど運動をしていない子ども達に、少しでもスポーツや運動をする時間を増やせるよう、どのように働きかけていくことができるかが重要な意味を持っている⁸⁾。体育の授業以外にはほとんど運動をしていない子どものスポーツや運動をする時間を増やすためには、運動をほとんどしない子どもだけを対象とするよりも、学校の児童全体を対象としたプログラムと一緒に参加し、他の子ども達と運動する機会をつくり、運動時間を増やすことが効果的であると考えられる⁸⁾。また、学校で毎日、始業前・業間・放課後等で、10分間の運動プログラムに全児童が参加するような機会を設ければ、全員が運動時間を週に50分増やすことができる。さらに、土・日曜日に、仲間や家族と、あるいは一人でも楽しめるプログラムを提供すること等で、より運動時間を増やすことが可能となれば、週60分以上スポーツや運動に取り組むことができるようになると考えられる。学校での体力向上のプログラムは、日頃運動をほとんどしていない、あるいは運動の不得意な子ども達への働きかけを念頭に置きながら、企画・立案して実行することが重要である⁹⁾。以上のことから本研究では、小学生の学内外におけるスポーツ・運動の実施状況を調査し、その傾向を明らかにすることで今後の小学生に対するスポーツ・運動の実施における支援の在り方を考察する。また、非実施者に対して、その要因を探り、スポーツ・運動の実施に向けた支援策を考察することを目的としている。

II. 研究概要

1. 目的：小学生の学内外におけるスポーツ・運動の実施状況を調査し、その傾向を明らかにすることで今後のスポーツ・運動の実施における支援の在り方を考察する。また、非実施者に対して、その要因を探り、スポーツ・運動の実施に向けた支援策を明らかにすることを目的としている。

2. 調査対象：大阪府 K 市内にある公立小学校の全 24 校の中から、一学年の生徒が 100 名を超える比較的中規模以上の中学校 4 校を選出した。
3. 調査地選定理由：「令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣調査」によると、調査地の K 市の状況は、男子は「握力」「長座体前屈」の種目を除いてすべての種目において全国平均を下回る結果が出ており、女子においては全国平均を上回る結果であったのは、「握力」のみであり、男女ともに全国平均に比べ低い結果であった。その要因を探るべく、K 市の公立小学校での活動の様子や学外での活動状況を調べ、その要因を明らかにすることを目的としている。
4. 調査対象者：選定した 4 校に通う小学 5 年生 431 名、内訳は男子 223 名（51.7%）、女子 208 名（48.3%）。
5. 回収率：500 部配布 431 部回収 回収率 86.2%
6. 回収方法：各校の児童に対して、調査の趣旨を説明し賛同を得た生徒に対して質問 紙による調査を実施した。
7. 調査日時：平成 30 年 12 月初旬～中旬
8. 質問内容：①スポーツ・運動の実施率②学校の自由時間でのスポーツや運動③帰宅後の屋外のスポーツ・運動実施状況④自宅近くのスポーツ・運動実施場所の有無⑤市の大会やスポーツイベント等の参加有無⑥参加した市の大会やスポーツイベント⑦情報の入手経路⑧スポーツ・運動の実施方法⑨現在実施しているスポーツ・運動活動⑩スポーツ・運動するにあたっての不満（非実施者に対して）⑪今後スポーツ・運動を実施したいと思うか⑫スポーツ・運動をしない理由⑬今後実施してみたいスポーツ・運動

Ⅲ. 結果・考察

1. スポーツ・運動の実施率

表 1) スポーツ・運動の実施率（授業を除く）

		調査数	男子	女子
合計		431	223	208
		100.0%	51.7%	48.3%
性別	男	223	223	—
		100.0%	100.0%	—
	女	208	—	208
		100.0%	—	100.0%
運動学校以外でのスポーツや	ほぼ毎日	153	100	53
		35.5%	44.8%	25.4%
	週に 1 回以上	137	56	81
		31.8%	25.1%	38.9%
	月に 1 回以上	18	8	10
	4.1%	3.6%	4.8%	
	ほとんどしていない	119	58	61
		27.6%	26.0%	29.3%

表 1 の調査に協力いただいた、回答者 431 名の内訳をみると、男子 223 名（51.7%）、女子 208 名（48.3%）であった。また、性別の違いによるスポーツ・運動の実施率をみると、「ほぼ毎日」「週に 1 回以上」と定期的に活動していると回答した者は、男子 69.9%、女子 64.3%であり、男女間で大きな差はみられなかった。また、「ほとんどしていない」と回答した者は、男子 26.0%、女子 29.3%とほぼ同様の結果であり、約 3 割の者が全くスポーツ・運動を行っていないことが明

らかになったであった。

2. 学校の自由時間でのスポーツや運動の実施率

表 2) 学校の自由時間でのスポーツや運動の実施率

		調査数	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	無回答
合計		431	210	126	66	28	1
		100.0%	48.7%	29.2%	15.3%	6.5%	0.2%
性別	男子	223	138	45	22	17	1
		100.0%	61.9%	20.2%	9.9%	7.6%	0.4%
	女子	208	72	81	44	11	—
		100.0%	34.6%	38.9%	21.2%	5.3%	—
運動 学校 以外 での スポ ーツ や	ほぼ毎日	153	125	21	6	1	—
		100.0%	81.7%	13.7%	3.9%	0.7%	—
	週に1回以上	137	52	61	20	3	1
		100.0%	38.0%	44.5%	14.6%	2.2%	0.7%
	月に1回以上	18	7	5	4	2	—
	100.0%	38.9%	27.8%	22.2%	11.1%	—	
	ほとんどしていない	119	24	37	36	22	—
		100.0%	20.2%	31.1%	30.3%	18.5%	—

表2の「学校の自由時間でのスポーツや運動の実施率」についてみると、「よくする」「時々する」と回答した者は77.9%（男82.1%・女73.5%）と高い数値を示し、性別の違いでみると男子の実施率が女子に比べ高い数値であった。また、「あまりしない」「全然しない」と回答した者は、21.8%（男17.5%・女26.5%）であり、女子の非実施者の方が高い数値を示した。授業以外でのスポーツや運動を、「ほとんどしていない」と回答した者も、学校の自由時間においては、51.3%の児童が「よくする」「時々している」と回答していることから、学校の休み時間の活用と仲間づくりの支援をすることでスポーツや運動の実施する機会があることが明らかになった。

3. 帰宅後の外でのスポーツ・運動の実施状況

表 3) 帰宅後の屋外でスポーツ・運動の実施状況

		調査数	よく遊ぶ	時々遊ぶ	あまり遊ばない	全く遊ばない	無回答
合計		431	205	141	55	29	1
		100.0%	47.6%	32.7%	12.8%	6.7%	0.2%
性別	男子	223	128	65	15	14	1
		100.0%	57.4%	29.1%	6.7%	6.3%	0.4%
	女子	208	77	76	40	15	—
		100.0%	37.0%	36.5%	19.2%	7.2%	—
運動 学校 以外 での スポ ーツ や	ほぼ毎日	153	99	40	7	7	—
		100.0%	64.7%	26.1%	4.6%	4.6%	—
	週に1回以上	137	53	56	21	7	—
		100.0%	38.7%	40.9%	15.3%	5.1%	—
	月に1回以上	18	9	4	3	2	—
	100.0%	50.0%	22.2%	16.7%	11.1%	—	
	ほとんどしていない	119	40	41	24	13	1
		100.0%	33.6%	34.5%	20.2%	10.9%	0.8%

表3の「帰宅後の屋外でスポーツ・運動で遊んでいるか」についてみると、「よくする」「時々する」の回答を合わせると80.3%（男86.5%・女73.5%）と高い数値を示し、性別の違いで見ると男子の実施率が女子に比べ高い数値であった。授業以外でのスポーツや運動を、「月に1回以上」「ほとんどしていない」と回答した者をみると、「月に1回以上」の者は72.2%（よく遊ぶ50.0%・時々遊ぶ22.2%）、「ほとんどしていない」の者は68.1%（よく遊ぶ33.6%・時々遊ぶ34.5%）と高い数値を示したことから、約7割の者がスポーツ・運動は行っていないものの屋外で遊んでいることが明らかになった。このことは、家庭内の遊びだけでなく屋外でも遊んでいることが明らかになり、地域の遊びの環境を充実させることで、児童のスポーツ・運動の実施率向

上に繋げることができるのではないかと考える。

4. 自宅近くのスポーツ・運動実施場所の有無

表 4) 自宅近くのスポーツ・運動実施場所の有無

		調査数	ある	ない	わからない	無回答
合計		431	355	44	32	
		100.0%	82.4%	10.2%	7.4%	
性別	男子	223	183	25	15	
		100.0%	82.1%	11.2%	6.7%	
	女子	208	172	19	17	
		100.0%	82.7%	9.1%	8.2%	
運動業以外でのスポーツや	ほぼ毎日	153	136	11	6	
		100.0%	88.9%	7.2%	3.9%	
	週に1回以上	137	116	14	7	
		100.0%	84.7%	10.2%	5.1%	
	月に1回以上	18	13	3	2	
	100.0%	72.2%	16.7%	11.1%		
	ほとんどしていない	119	86	16	17	
	100.0%	72.3%	13.4%	14.3%		

表4の「自宅近くのスポーツ・運動実施場所の有無」についてみると、「ある」と回答したものは、82.4%（男82.1%、女82.7%）であった。結果、この地域においては比較的スポーツ・運動を実施する場所が多いことが明らかになった。また、スポーツ・運動を「ほとんどしていない」と回答した者でも、75.6%が「ある」と回答していることから、多くの非実施者は運動環境の有無が直接の問題ではないことが明らかになった。よって「ほとんどしていない」と回答した者に対し、環境面以外でどのような理由から、スポーツや運動を実施しないのか実態を把握し、その者に対して学校や自治体等がどのような支援をすることが実施率に繋がるのか考えていかなければならない。

5. 市の大会やスポーツイベント等への参加の有無

表 5) 市の大会やスポーツイベント等への参加の有無

		調査数	ない	ある	無回答
合計		431	265	165	1
		100.0%	61.5%	38.3%	0.2%
性別	男子	223	129	93	1
		100.0%	57.8%	41.7%	0.4%
	女子	208	136	72	—
		100.0%	65.4%	34.6%	—
運動業以外でのスポーツや	ほぼ毎日	153	79	74	—
		100.0%	51.6%	48.4%	—
	週に1回以上	137	81	56	—
		100.0%	59.1%	40.9%	—
	月に1回以上	18	13	5	—
	100.0%	72.2%	27.8%	—	
	ほとんどしていない	119	91	27	1
	100.0%	76.5%	22.7%	0.8%	

表5の「市の大会やスポーツイベント等への参加の有無」についてみると、「ある」と回答した者は38.8%（男子41.7%・女子34.6%）であり、男女とも低い参加率であった。その中で、スポーツ・運動の実施を「ほぼ毎日（48.4%）」と「週に1回以上（40.9%）」と高い実施者であっても、市の大会やスポーツイベントへの参加率は、全体の44.7%とあまり高い数値でないことが明らかになった。また「月に1回以上（27.8%）」「ほとんどしていない（22.7%）」と回答した者の参加率も、25.3%とさらに参加率が低いことが明らかになった。結果、日頃実施率の高い者でも参加率が半数程度であったことから、小学生が気軽に参加できるイベントや大会の在り方を考

えていく必要がある。

6. 参加した市の大会やスポーツイベント

表 6) 参加した市の大会やスポーツイベント

	調査数	年スポーツ大会	市民大会	カスカーニバル	登山ファミリー	ウォークラリー	教室初心者水泳	ニユースポーツ体験会	体育館教室	よくわからない	無回答	
合計	165 100.0%	27 16.4%	24 14.5%	26 15.8%	— —	4 2.4%	23 13.9%	5 3.0%	11 6.7%	36 21.8%	9 5.5%	
性別	男子	93 100.0%	23 24.7%	13 14.0%	15 16.1%	— —	2 2.2%	8 8.6%	4 4.3%	6 6.5%	18 19.4%	4 4.3%
	女子	72 100.0%	4 5.6%	11 15.3%	11 15.3%	— —	2 2.8%	15 20.8%	1 1.4%	5 6.9%	18 25.0%	5 6.9%
授業実施率以外のスポーツや運動	ほぼ毎日	74 100.0%	13 17.6%	12 16.2%	15 20.3%	— —	— —	10 13.5%	1 1.4%	6 8.1%	16 21.6%	1 1.4%
	週に1回以上	56 100.0%	10 17.9%	8 14.3%	8 14.3%	— —	1 1.8%	6 10.7%	2 3.6%	1 1.8%	14 25.0%	6 10.7%
	月に1回以上	5 100.0%	— —	— —	1 20.0%	— —	— —	2 40.0%	— —	1 20.0%	— —	1 20.0%
	ほとんどしていない	27 100.0%	3 11.1%	4 14.8%	2 7.4%	— —	3 11.1%	5 18.5%	2 7.4%	3 11.1%	5 18.5%	— —

表6の「市の大会やスポーツイベントに参加したもの」について、男女別に参加率をみると、男子では「スポーツ少年大会（24.7%）」「スポーツカーニバル（16.1%）」「市民大会（14.0%）」、女子では「初心者水泳大会（20.8%）」「市民大会（15.3%）」「スポーツカーニバル（15.3%）」が上位を占めた。「スポーツ少年大会」は、小学校対象ではあるがスポーツ少年団に所属することで出場機会のある大会、「市民大会」においては、子どもから大人が対象の大会であり、一部一般参加も認められているが、地域のスポーツクラブ、又は学校でのクラブ活動等に所属しているものが優先される大会である。また、「スポーツカーニバル」においては、子どもから大人までが対象で、様々な種目が用意され、誰でも参加できるのか特徴のイベントである。このことから、市の大きな大会・イベントにおいて、無所属の子ども達が気軽に参加できるものは限られていることがわかる。スポーツ・運動の実施率向上のためにも、誰もが気軽に参加できる大会やイベントの在り方を考えていくことが重要である。

7. 情報の入手経路

表7の実施者に対し行った「スポーツや運動をするチームや場所をどこで知ったか」についてみると、「知り合い（友人）の紹介（30.5%）」（男 33.5%・女 27.1%）、「学校（25.6%）」（男 23.8%・女 27.8%）と、男女とも高い数値を示した。しかし「月に1回以上」の実施者は、「知り合い（友人）の紹介」の数値が、5.6%と低いことから、友人関係がスポーツ・運動の実施率に影響しているのではないかと考えることができる。また、全体で「家族が入っていた」の数値が18.2%（男 18.3%・女 18.1%）であったのに対し、「月に1回以上」と回答した者は、44.4%と高い数値であることから、家族以外からの情報が少ないことが実施率の低下につながっていることが考えられる。また「市の広報やホームページ」は、男女、またはスポーツ・運動の実施率からみても低い数値であり、自治体はこの年齢層に応じた情報提供の在り方を考えていく必要があることが明らかになった。

8. スポーツ・運動の実施方法

表8の「スポーツ・運動をどのようなかたちで行っているか」についてみると、男女とも「学校の部活動以外のスポーツクラブや教室（33.1%）」（男 28.7%・女 38.2%）と高い数値を示した。

表 7) スポーツや運動をするチームや場所の情報の入手経路

		調査数	市の広報やホームページ	の紹介(友人)	家族が入っていた	学校	その他	無回答
合計		308 100.0%	26 8.4%	94 30.5%	56 18.2%	79 25.6%	47 15.3%	6 1.9%
性別	男子	164 100.0%	14 8.5%	55 33.5%	30 18.3%	39 23.8%	24 14.6%	2 1.2%
	女子	144 100.0%	12 8.3%	39 27.1%	26 18.1%	40 27.8%	23 16.0%	4 2.8%
授業以外でのスポーツや運動の実施率	ほぼ毎日	153 100.0%	10 6.5%	55 35.9%	25 16.3%	42 27.5%	18 11.8%	3 2.0%
	週に1回以上	137 100.0%	16 11.7%	38 27.7%	23 16.8%	33 24.1%	24 17.5%	3 2.2%
	月に1回以上	18 100.0%	—	1 5.6%	8 44.4%	4 22.2%	5 27.8%	—
	ほとんどしていない	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—

表 8) スポーツ・運動の実施方法について

		調査数	学校の部活動	学校の部活動以外のスポーツクラブや教室	スポーツ少年団	総合型地域スポーツクラブ	友達や仲間ですら自由に活動	家族と自由に活動	よくわからない	無回答
合計		308 100.0%	18 5.8%	102 33.1%	26 8.4%	44 14.3%	51 16.6%	13 4.2%	50 16.2%	4 1.3%
性別	男子	164 100.0%	12 7.3%	47 28.7%	23 14.0%	26 15.9%	25 15.2%	6 3.7%	24 14.6%	1 0.6%
	女子	144 100.0%	6 4.2%	55 38.2%	3 2.1%	18 12.5%	26 18.1%	7 4.9%	26 18.1%	3 2.1%
授業以外でのスポーツや運動の実施率	ほぼ毎日	153 100.0%	10 6.5%	49 32.0%	14 9.2%	26 17.0%	27 17.6%	6 3.9%	19 12.4%	2 1.3%
	週に1回以上	137 100.0%	7 5.1%	50 36.5%	12 8.8%	14 10.2%	21 15.3%	6 4.4%	25 18.2%	2 1.5%
	月に1回以上	18 100.0%	1 5.6%	3 16.7%	—	4 22.2%	3 16.7%	1 5.6%	6 33.3%	—
	ほとんどしていない	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—

その他、男子では「総合型地域スポーツクラブ (15.9%)」「友達や仲間ですら自由に活動 (15.2%)」、女子では「友達や仲間ですら自由に活動 (18.1%)」「総合型地域スポーツクラブ (12.5%)」が上位を占めた。この結果から、男女とも「学校の部活動以外のスポーツクラブや教室」「総合型地域スポーツクラブ」「スポーツ少年団」等に所属している割合が高く、地域スポーツが小学生の運動・スポーツの実施率向上に大きく寄与していることが明らかになった。また、「友達や仲間ですら自由に活動」が男女とも上位にあったことから、友達同士ですら自由に行う活動を学内外でどのように支援すべきかを考えていく必要がある。

9. スポーツ・運動するにあたっての不満

表 9 の「スポーツ・運動活動するにあたっての不満」についてみると、男女とも「不満はない (64.3%)」(男子 64.0%、女子 64.6%) が高い数値を示し、多くの者が現在の活動の在り方に満足していることが明らかになった。その他、男女の違いでみると、男子では「活動時間が短い (7.9%)」「試合が少ない (7.9%)」「指導者が怖い (6.7%)」、女子では「活動場所まで遠い (7.6%)」「活動時間が短い (6.3%)」「試合が少ない (6.3%)」が上位を占め「活動時間が短い」「試合が少ない」という結果であり、活動時の時間や試合に関する項目が上位を占めた。

表 9) スポーツ・運動するにあたっての不満

		調査数	活動時間が短い	指導者がこわい	活動場所まで遠い	指導がわかりにくい	施設がふるい	試合が少ない	指導者の人数が少ない	練習が楽しくない	試合に出られない	色々な種目が少ない	その他	不満はない	無回答
合計		308	22	19	19	7	4	22	9	13	7	13	9	198	14
		100.0%	7.1%	6.2%	6.2%	2.3%	1.3%	7.1%	2.9%	4.2%	2.3%	4.2%	2.9%	64.3%	4.5%
性別	男子	164	13	11	8	3	3	13	5	7	5	8	4	105	6
		100.0%	7.9%	6.7%	4.9%	1.8%	1.8%	7.9%	3.0%	4.3%	3.0%	4.9%	2.4%	64.0%	3.7%
	女子	144	9	8	11	4	1	9	4	6	2	5	5	93	8
		100.0%	6.3%	5.6%	7.6%	2.8%	0.7%	6.3%	2.8%	4.2%	1.4%	3.5%	3.5%	64.6%	5.6%
授業以外でのスポーツや運動の実施率	ほぼ毎日	153	14	10	8	4	1	17	5	6	6	9	2	91	8
		100.0%	9.2%	6.5%	5.2%	2.6%	0.7%	11.1%	3.3%	3.9%	3.9%	5.9%	1.3%	59.5%	5.2%
	週に1回以上	137	7	6	9	3	2	4	4	7	1	4	7	96	5
		100.0%	5.1%	4.4%	6.6%	2.2%	1.5%	2.9%	2.9%	5.1%	0.7%	2.9%	5.1%	70.1%	3.6%
	月に1回以上	18	1	3	2	—	1	1	—	—	—	—	—	11	1
	100.0%	5.6%	16.7%	11.1%	—	5.6%	5.6%	—	—	—	—	—	61.1%	5.6%	
	ほとんどしていない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

10. スポーツ・運動の非実施者に対して

表 10) 今後スポーツ・運動を実施したいと思うか（非実施者に対して）

		調査数	したい	したくない	わからない	無回答
合計		119	50	22	47	
		100.0%	42.0%	18.5%	39.5%	
性別	男子	58	22	12	24	
		100.0%	37.9%	20.7%	41.4%	
	女子	61	28	10	23	
		100.0%	45.9%	16.4%	37.7%	
授業以外でのスポーツや運動の実施率	ほぼ毎日	—	—	—	—	
		—	—	—	—	
	週に1回以上	—	—	—	—	
		—	—	—	—	
	月に1回以上	—	—	—	—	
		—	—	—	—	
	ほとんどしていない	119	50	22	47	
		100.0%	42.0%	18.5%	39.5%	

表 10 の非実施者に対して行った、「今後スポーツ・運動を実施したいと思うか」についてみると、「したい」と回答した者は 41.9%（男子 37.9%、女子 45.9%）であり、約 4 割の者が実施することに興味を示している。また、「わからない」と回答した者が、39.6%（男子 41.4%、女子 37.7%）であった。以上の結果から、「わからない」と回答した、どちらにも回答できなかった者に対しての原因究明と、「したい」と回答した者に対しての支援方法を学校と自治体の両面で早急に対応していく必要がある。

表 11 の非実施者に対して行った、「スポーツや運動をしていない理由」についてみると、男子では、「家で遊ぶ方が好きだから（53.4%）」「やる気がしなから（27.6%）」「あまり好きじゃないから（27.6%）」、女子では、「家で遊ぶ方が好きだから（42.6%）」「あまり好きじゃないから（39.3%）」「特に理由はない（36.1%）」が上位を占め、男女ともほぼ同様の理由であることが明らかになった。また、男女ともに室内で遊ぶ傾向にある。しかし、表 10 の結果にもあるように「したい」と回答した者が 42.0%（男子 37.9%、女子 45.9%）存在していることから、学校や自治体はスポーツクラブ・運動教室等に属さない子でも実施可能な、スポーツ・運動実施の支援の在り方を考えていくことが重要であることが明らかになった。

表 12 の非実施者に対して行った、「今後実施してみたいスポーツや運動」についてみると、男

表 11) スポーツ・運動をしない理由 (非実施者対象)

	調査数	あまり好きじゃないから	家で遊ぶほうが好きだから	やる気がしないから	特に理由はない	上手くできないから	勉強・塾などで忙しいから	教室がないから	少年団・クラブややりたいスポーツ	お金がかかるから	友達がしていないから	近くに場所がないから	公園、広場などいつも使えないから	運動場や体育館、から	家族がしていないから	その他	無回答
合計	119	40	57	26	37	26	16	2	9	2	10	3	8	1	2		
	100.0%	33.6%	47.9%	21.8%	31.1%	21.8%	13.4%	1.7%	7.6%	1.7%	8.4%	2.5%	6.7%	0.8%	1.7%		
性別	男子	58	16	31	16	15	9	7	2	3	1	5	3	2	1	1	
		100.0%	27.6%	53.4%	27.6%	25.9%	15.5%	12.1%	3.4%	5.2%	1.7%	8.6%	5.2%	3.4%	1.7%	1.7%	
女性	61	24	26	10	22	17	9	—	6	1	5	—	6	—	1		
		100.0%	39.3%	42.6%	16.4%	36.1%	27.9%	14.8%	—	9.8%	1.6%	8.2%	—	9.8%	—	1.6%	
実施率	授業以外でのスポーツや運動の	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ほぼ毎日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	週に1回以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	月に1回以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ほとんどしていない	119	40	57	26	37	26	16	2	9	2	10	3	8	1	2		
	100.0%	33.6%	47.9%	21.8%	31.1%	21.8%	13.4%	1.7%	7.6%	1.7%	8.4%	2.5%	6.7%	0.8%	1.7%		

表 12) 今後実施してみたいスポーツ・運動 (非実施者対象)

	調査数	野球	サッカー	バスケットボール	剣道	バレーボール	空手	陸上競技	柔道	ソフトボール	少林寺拳法	水泳	卓球	バドミントン	合気道	ラグビー	テニス	ソフトテニス
合計	119	14	16	17	9	11	8	4	3	1	2	21	22	23	2	1	25	2
	100.0%	11.8%	13.4%	14.3%	7.6%	9.2%	6.7%	3.4%	2.5%	0.8%	1.7%	17.6%	18.5%	19.3%	1.7%	0.8%	21.0%	1.7%
性別	男子	58	13	13	10	7	2	2	2	1	2	8	10	6	—	1	13	—
		100.0%	22.4%	22.4%	17.2%	12.1%	3.4%	3.4%	3.4%	1.7%	3.4%	13.8%	17.2%	10.3%	—	1.7%	22.4%	—
女性	61	1	3	7	2	9	6	2	1	—	—	13	12	17	2	—	12	2
		100.0%	1.6%	4.9%	11.5%	3.3%	14.8%	9.8%	3.3%	1.6%	—	21.3%	19.7%	27.9%	3.3%	—	19.7%	3.3%
実施率	授業以外でのスポーツや運動の	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ほぼ毎日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	週に1回以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	月に1回以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ほとんどしていない	119	14	16	17	9	11	8	4	3	1	2	21	22	23	2	1	25	2
	100.0%	11.8%	13.4%	14.3%	7.6%	9.2%	6.7%	3.4%	2.5%	0.8%	1.7%	17.6%	18.5%	19.3%	1.7%	0.8%	21.0%	1.7%

	体操・新体操	ダンス	ドッジボール	ホッケー	弓道	ウオーキング	ゴルフ	マラソン	スケート	スキー・ボード	(野外活動) キャンプ	色々なスポーツをした	その他	無回答	
合計	8	15	17	2	3	3	3	3	16	12	9	19	2	3	
	6.7%	12.6%	14.3%	1.7%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%	13.4%	10.1%	7.6%	16.0%	1.7%	2.5%	
性別	男子	2	—	11	1	3	—	2	3	4	7	5	8	1	1
		3.4%	—	19.0%	1.7%	5.2%	—	3.4%	5.2%	6.9%	12.1%	8.6%	13.8%	1.7%	1.7%
女性	6	15	6	1	—	3	1	—	12	5	4	11	1	2	
		9.8%	24.6%	9.8%	1.6%	—	4.9%	1.6%	19.7%	8.2%	6.6%	18.0%	1.6%	3.3%	
実施率	授業以外でのスポーツや運動の	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ほぼ毎日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	週に1回以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	月に1回以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ほとんどしていない	8	15	17	2	3	3	3	3	16	12	9	19	2	3	
	6.7%	12.6%	14.3%	1.7%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%	13.4%	10.1%	7.6%	16.0%	1.7%	2.5%	

子では「野球 22.4%」「サッカー (22.4%)」「テニス (22.4%)」、女子では「バドミントン (27.9%)」「ダンス (24.6%)」「水泳 (21.3%)」が高い数値を示し、男子では球技種目、女子はそうでない種目と男女で実施したい種目の傾向が分かれる結果であった。

IV. まとめ

運動・スポーツの実施率をみると、週1回以上活動している者は、男女とも6割を超えており、その多くが学校の部活動以外のスポーツクラブや運動教室、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等に所属している割合が高く、地域スポーツが小学生のスポーツ・運動の実施率向上に大きく寄与していることが明らかになった。また、そのスポーツや運動をする切っ掛けとなったのは、「知り合い(友人)の紹介」という回答が、男女とも高い数値を示し、このことから友人関係の充実が運動・スポーツの実施率向上に影響していると考えることができる。その他、帰宅後、スポーツや運動をほとんどしていないと回答した者も、学校の自由時間においては、51.3%の者が「よくする」「時々している」と回答していることから、まわりに仲間がいることでスポーツ・運動を実施する機会につながっていることが明らかになった。また、市の大会やスポーツイベント等への参加有無について、「ある」と回答した者は、38.8% (男 41.7%・女 34.6%)であり、男女とも低い参加率であった。その理由として、市の大会・イベントにおいて、運動やスポーツクラブ等に所属していない子どもたちが気軽に参加できるものは限られていることが明らかになり、大会やイベント等が新たなスポーツ・運動の実施率向上につながっていない。今後は地域の子どもの誰もが参加できる大会やイベントの在り方を考えていくことが急務である。また非実施者について、自宅近くに屋外で遊べる環境があるにも関わらず、スポーツ・運動を実施していないことが明らかになり、非実施者は運動する環境が直接の問題ではないことが明らかになった。また、非実施者に対して行った、「今後運動・スポーツを実施したいと思うかについて」みると、「したい」と回答した者は男子 37.9%、女子 45.9%であり、約4割の者が何かしらすスポーツ・運動の実施に興味を示している。よって、それらの者に対して学校や自治体は、学内で実施可能な運動・スポーツの在り方、または地域においては、現在スポーツクラブ・教室に属さない子ども達が実施可能な運動・スポーツの在り方を考えていくことが必要であることが明らかになった。

参考・引用文献

- 1) 笹川スポーツ財団 (2020) 『子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2019』
- 2) スポーツ庁 (2020) 「2019年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922_00001.html
- 3) スポーツ庁 (2020) 「2019年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922_00001.html
- 4) スポーツ庁 (2020) 「2019年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922_00001.html
- 5) リセマム HP (2018) 「子どもの体遊び、時間や頻度だけでなく種類も減少」
<https://resemom.jp/article/2018/10/02/47014.html>
- 6) 文部科学省 (2012) 「子どもの体力向上のための取組ハンドブック」
第2章 全国体力調査によって明らかになったこと pp17-18.

- 7) 8) 文部科学省 (2012) 「子どもの体力向上のための取組ハンドブック」
第2章 全国体力調査によって明らかになったこと p19.
- 9) 文部科学省 (2012) 「子どもの体力向上のための取組ハンドブック」
第2章 全国体力調査によって明らかになったこと p20.
- 10) 西村久美子他 (2003) 「運動・スポーツ非実施へいたるプロセス」スポーツ社会学研究 11. pp88-101.
- 11) スポーツ庁 (2016) スポーツの実施状況等に関する世論調査 pp45-46.
- 12) 大阪市教育委員会 (2020) 令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
大阪市 HP 教育委員会事務局指導部保健体育担当保健体育グループ (体育)
- 13) 舞寿之他 (2014) 「地域における子どもの運動・スポーツ活動の現状の問題点と課題に関する研究」プール学院大学紀要第 55 号 pp140-151.
- 14) 林園子 (2012) 「中学生における運動・スポーツ活動が日常生活の充実度に与える影響に関する研究」東京家政大学第 52 集 pp47-54.
- 15) 加賀勝他 (2004) 「青少年期における運動実施頻度の二極化について」日本小児科学会雑誌 (0001-6543) 108 巻 4 号 pp625-634.

